

# 東条川疏水ゴムボート下り 冒険に緊張と笑顔

加東市黒谷の鴨川ダムを主な水源とする水路網「東条川疏水」をゴムボートで下りその歴史や役割などを知るイベント「水路deボート探検」が3日、同市松沢の国営2号幹線水路と安政池のほとりで開かれた。北播磨在住の小学生ら約100人が参加し、冒険気分です水ができた背景などを学んだ。  
(中西大二)

兵庫県東播磨土地改良区が主催し、今年で3回目。子どもたちは鴨川ダムで集合し、約8キロ離れた安政池までバスで移動した。兵庫教育大の学生ボランティアが紙芝居で鴨川ダムや東条川疏水が建設された理由について詳しく解説。戦後の食糧難で農産物に供給する水が必要だったことや、現在は加東市、小野市の一部で水道水にも使われていることを説明した。草刈りなど今も地域



ボートに乗り込み、少し緊張した表情で水路を下る子どもたち。いずれも加東市松沢

## 児童ら100人 「楽しかった」 歴史、役割も学ぶ

の人々の手で管理されている状況も紹介、疏水の総延長が約100キロにも及ぶことを話し、児童らは真剣な表情で聞き入っていた。続いて、4人一組になって子どもたちはゴムボート乗り場へ。途中、疏水に関するクイズを解きながら約800メートルのコースを20分ほどかけて下った。ゴールの安政池では、ダムをかたどった「ダムカレー」が振る舞われた。滝野東小1年の三山創資君（7）「加東市北野」は「探検をするようで楽しかった」と笑顔で話していた。



森の中を流れる東条川疏水の水路